

2026年7月8日（水）

老球の細道930号

ノルウェーサッカーの選手育成「四つの才能」

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

何の分野でも勝負の世界には上には上があるものである。週明けの月曜日の朝、いつも朝遅く起きてくる孫たちがテレビを見ている。サッカーワールドカップ、ブラジル対ノルウェーの試合である。日本が負けたサッカー大国ブラジルが28年ぶりに出場を果たしたノルウェーにどのような勝ち方をするか見たかったのだろう。それによって、やはり日本は強かった、そして日本が勝っていたらワールドカップ優勝も夢ではなかったなどと父と語りたかったのだろうか。しかし、勝負は過酷である。サッカー王国ブラジルが、小国ノルウェーに完璧に負けた。しかもハーランドという怪物に教科書のような2ゴールを射抜かれて。

この試合の結果が出る前に7月6日（月）の朝日新聞朝刊には小国ノルウェーの育成術の記事が掲載されていた。試合が終わった午後のテレビュー福島「ひるおび」では早速この記事をまとめて試合の解説がなされていた。さすがにテレビ局である。

ノルウェーサッカー協会の育成担当コーチに「世界的な選手が育つ理由を教えてください」と聞いた。するとハーランドが14歳時に参加した全国合宿時の様子を伝えた。全国の合宿で選ばれた25人うち誰が将来一番良い選手になるか、コーチ陣で丸をつけたら、誰もハーランドに印をつけなかった。その時ハーランドはまだ技術的に未熟で、U16の合宿の時も居残り練習をさせられていた。ハーランドは遅咲きだったのである。

ノルウェーのジュニアの合宿では最高の才能を当てるのではなく、出来るだけ多くの才能を残すこと。そのときに見極める才能の定義を四つにまとめられている。①いつもサッカーをしたい気持ちがあるか②成長マインド③学ぶ意欲④存在感である。技術やフィジカルではない。これらの要素があれば、結果的にドリブルもパスもうまくなるともいう。さらに、ハーランドの場合は幼いころからフィジカルではなく知性を成長させた。どう動けば得点できるか等。彼は「知性の怪物」だと育成担当者は評している。

会津バスケットボール協会においても「地区 DC (Development Center)」と称して12歳から技術、体力、メンタル、戦術などで将来有望な選手をピックアップして強化をしている。しかし、この年齢でピックアップされた選手が順調に中学、高校まで成長したという例をあまり聞かない。途中でバスケットからリタイアしたり、ケガをしたり、十分に伸びなかったりなどで高校の年間ベスト5などに名を連ねることができない場合もある。

私が現役コーチの頃は、U12、U15時代に地区の優秀選手だという選手を何人か指導したことがあるが、いかんせんほとんどが途中でリタイアしたり、あまり伸ばせないで終わってしまった選手が多かった。反対に無印であったり、ミニの経験がなかったり、中学校で補欠だったり、違うスポーツをやっていたりしていた選手が高校で大ブレイクするパターンをたくさん見て来た。そのような選手は共通して「バスケット命」「優勝したい、一番になりたい」「知らないことはすぐに質問する」「真面目さ、声を出すなどの存在感」があった。